

身近なところから課題を発見する大切さを知り 進路選択について考えるきっかけとする

洗足学園高校 (神奈川・私立)

【活用キーワード】 >> ● 進路選択 ● 探究 ● 課題発見 ● ポートフォリオ

● 1年生の学外活動と講演(抜粋)

- ・東京工業大学訪問
- ・東京大学訪問
- ・経済産業省訪問
- ・慶應義塾大学訪問
- ・読売新聞社訪問
- ・資生堂にて研究開発に携わるOGの講演会
- ・女性教員による人生についての講演会
- ・進路ガイダンス①～⑦
- ・生徒による学外活動報告会
- ・現役大学生OGによる勉強法などの講演

● スタディサプリ進路「探究思考講座」



『探究思考講座』は65分授業×2コマで実施。最後に各自がeポートフォリオに感想を記入して終了。



受講した生徒の感想 (事後の「活動メモ」より抜粋)

- ・今あるものに対してどうすればより良くなるのか課題を発見する力が大切だと感じた。
- ・普段の授業ではないような参加型でとても考えさせられ、心から楽しかった。自分が将来何がしたいか、また一歩見えた気がする。
- ・今の社会に必要なのは課題を発見する力ということにすごく共感できた。アイデア、発想は人間にしかできないので、私はもっと観察眼を身につけたい。そのために知識を増やすこと(授業をしっかり受けること)も大事。
- ・自分は周りの人に比べて課題発見の力があると思った。そういうことをするのが楽しい。
- ・模擬国連に参加して自分は課題発見力がある程度ついたと考えていたが、日常生活で課題発見はしたことがなかった。これからはもう少し考えてみたい。
- ・知識だけで生きていくのではなく、他の人が考えないような面白いものを生み出せるような、遊び心のある大人になりたい。
- ・高1になり部活動でもうまくできない原因や解決策を考えるようになったが、それは将来につながることをしているのとわかった。
- ・友達の見聞からたくさんヒントを得ることができたので、もっと他人の意見に耳を傾けようと思った。
- ・課題の解決策は一つではないことを知った。
- ・課題を見つける力ということをよく聞いていたが、今回クイズ形式で触れられたことで、それを実感することができた。
- ・身の回りで見られる小さな出来事が、将来の自分に大きくつながるかもしれないということを知った。今の状況と理想像のギャップに課題があることを知ったから、理想像をこれから明確にしていきたい。

取材・文／永井ミカ

課題

体験活動や講演を整理・アウトプットし進路選択へつなげたい

洗足学園高校は完全中高一貫型の女子校。難関大学に毎年多数の合格者を出している全国でも有数の進学校だ。「生徒は真面目で優秀。ただチャレンジ精神に欠けることがあります。もっと自分の可能性を信じて進路を切り拓いてほしい」と学年主任の高橋道人先生は言う。

同校のキャリア教育は中学3年から高校1年にかけて集中的に行われる。将来を考える材料として、留学やボランティア募集など学外での体験活動を積極的に紹介して参加を促し、学年でも校外活動や講演を企画・提案。例えば、卒業生による、大学の学園祭ツアーや、AIに関する講演など多彩な内容だ。

「進路選択には経験やビジョンが必要。多くの人の話を聞き、外に出るようには促しています」と高橋先生。ただしこれまでは、参加する生徒が固定化したり、参加

活用

進路選択の手がかりとなる『探究思考講座』と、点線にする「ポートフォリオ」

そんななか、昨年度、1年生が受講したのがスタディサプリ進路「探究思考講座」。話題になった商品やサービスを事例に挙げ、それらがどのような課題感から生まれたのか解き明かすことで、身近なところから課題を発見する力を養う講座だ。

「活動参加に消極的な生徒や進路を考える手がかりをもてない生徒も巻き込みたい」と思い、全員参加としました。日々の生活など身近なところにも進路を考えるきっかけがあることを知ってほしかったのです」と高橋先生。「インパクトはありました。やりたいことが漠然としている生徒にとっても、考えるきっかけになったと思います」。生徒が気軽に挑戦し思考することにつながったのか、昨年度は、任意

の体験活動に参加する生徒が240人中170人と、例年より大幅に増えた。

同時にスタディサプリのeポートフォリオも導入。「探究思考講座」を含めたさまざまな行事ごとに活動メモを蓄積し、2年生10月以降に振り返ってまとめていく。「点々の経験やそこからの学びを線にしていくことで整理しながら進路を考えることにもつながれば。そして、偏差値ではなく納得度や自己肯定感をもって進路を選べるようになってほしい」とのこと。さらに、生徒のコメントの一部を学年通信で紹介。互いに刺激・批評し合うという効果を期待している。

「これからの時代、課題をもつということは重要です。自分の生活を豊かにするだけでなく、社会にアンテナを張り、倫理観を養ってほしい。そのためには、従来の教科には収まりきらない学習も大切にしていきたいと考えています。教えるのではなく一人の大人として意見が言えるような取組なら、教員もやりやすいのではないのでしょうか(高橋先生)」



高校2年学年主任
高橋道人先生

School Data

1924年創立／普通科／生徒数710人(女子のみ)／進路状況(2019年3月実績)大学進学208人、その他(浪人など)27人